

いのちの言の葉2010

富山県教育委員会 平成 22 年度いのちの教育総合支援事業

「いのちの教育」

富山市立東部中学校 1 学年生徒
平成 22 年 11 月 17 日実施

【いのちの先生】

酒井 照枝先生

・ 県立中央病院 主幹助産師

【授業の概要】

1 いのちの先生の話

- ① いのちの誕生（受精）
- ② 胎児の成長過程・誕生

2 体験

- ① 胎児・新生児の人形を抱く
- ② 胎児の心音を聴き、自分の脈拍と比較する
- ③ 出産を間近に控えた妊婦の気持ちを聞く



生徒の感想

いのちの授業で、いのちの始まりがすごく小さかったことと、赤ちゃんは生まれる前から必死に生きようとしていることを知って驚きました。赤ちゃんにとって生き続けることは、マラソンをしているくらいたいへんだと知り、赤ちゃんってすごいと思いました。

いろいろな人に大切にされ、見守られて誕生した世界でたった一つだけの「いのち」。死んでしまったらもう二度と生き返ることがない「いのち」。私は「いのち」をこれからも大事にして生きていこうと思いました。そして、これからは自分が好きになれるような自分になりたいとも思いました。

生徒の感想

いのちは一つしかないことは分かっていましたが、いのちの授業で教えていただいたほど深いいのちについて考えたことはありませんでした。いのちの誕生は、「さばくの中で、アサガオの種を見つけるくらい」の確率だと言われたときは驚きました。いのちは一つしかないうえに、すごくわずかな確率で生まれていて、言葉では言い表せないくらい大切なものだと感じました。

赤ちゃんが生まれてくるとき、お母さんと赤ちゃんの体にすごく負担がかかって生まれてきます。そのDVDを見たとき、お母さんがすごくうれしそうにしていました。赤ちゃんに声をかけたりしている母親の姿を見て、自分が生まれてきたときも、一生懸命生まれようと努力して、お母さんと一緒にがんばったんだと思うと、このいのちは自分だけのものではないと思いました。

いのちの授業に参加して、いのちの大切さをこれまでよりももっと知ることができたと思います。一つしかないいのちを決して粗末に扱わず、大切に、これからの時間を生きていきたいです。今日はすごく大切な時間を過ごせたと思いました。